

公的年金保険制度を題材としたモデル授業①（案）（1時間目）

○授業の目標

- ・ 人生にはさまざまなリスクが潜んでいることを理解する。
- ・ 社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。
- ・ 各自が必要と考える社会保障制度について考えを整理し、意見を構築する。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 (社会保障教育の視点) など
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障全体について考える。 	<p><u>発問：社会保障制度の全体像について考えてみよう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一生の間にどのような社会保障を受ける可能性があるかを各自で考えてみる。 <p>【理解してほしい内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの安定した生活に欠かせない社会保障制度。日々の「安心」の確保や生活の「安定」を図るための制度であり、一生を通じてわたしたちの生活を支える役割を担っている。 ・ 日本の社会保障制度には、社会保険（◇医療・年金・介護等）に加え、社会福祉（☆児童手当、障害福祉サービス等）、公的扶助（○生活保護等）、公衆衛生（□感染症対策・保健事業等）がある。 ・ 社会保険は、人々が生活のリスクを分かち合うため、法律で対象者を定め加入を義務づけている。保険料の金額は原則、賃金などの拠出能力に応じて決まる。（必要な保険料を拠出していないと必要な時にサービスを受けることができない。低所得者には保険料の減免を実施。） <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンクエスチョン 社会保障制度が存在しなかった場合、私たちの生活はどういったものになるかを考える。 	<p>（その他活用可能な教材等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師の活用 <p>年の近い卒業生（出産、子育て、医療、介護で社会保障を享受した体験を話してもらう。）、老齢年金受給世代等（年金についてどう考えるか聞く。）、各国の大使館（各国の社会保障制度について聞く。）へのインタビュー。 年金制度について日本年金機構によるセミナー等。 ※外部講師の</p>

			<p>活用の際はオンライン会議を積極的に活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画の視聴「家族を想うとき」等社会保障全般を題材に扱った映画を視聴する。
<p>展開 ①</p>	<p>公的年金制度の意義について理解する。</p>	<p><教える内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的年金制度は、予測できない将来に備えるもの <p>公的年金制度には、「老齢になった」「障害を負った」「一家の大黒柱が亡くなった」という予測できない3つのリスクに対応するため、「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」が用意されている。</p> <p><理解のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「年金」というと「老齢年金」がイメージされ、高齢者のものとイメージされがちだが、実際にはあらゆるリスクに対応しており、全世代の安心のための制度 <p><教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金制度に関するクイズ ・年金制度に関する資料 	<p>(その他活用可能な教材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私と年金」エッセイ
<p>展開 ②</p>	<p>公的年金制度の仕組みと必要性について理解する。</p>	<p><教える内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金制度は20歳以上60歳未満の国民が支払った保険料などを原資として、高齢者をはじめとしたリスクに直面した方への給付に充てられている。 ・年金の給付額は、その時代の物価水準に連動する形で支給されるため、個人では対応することが困難な物価変動のリスクにも対応している。 <p><理解のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価変動のリスクや長生きリスクに対応する為、公的年金制度は積立方式ではなく賦課方式が適当 ・賦課方式を採用することで、個人の貯蓄では対応することが困難な物価変動のリスクにも年金制度は対応 	

		<p><教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金制度に関するクイズ 	
ま と め	<p>社会保障制度の全体像と年金制度について振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生には様々な「リスク」が伴うが、年金をはじめとした社会保障は社会全体の支え合いの制度であることを理解する。 ・今後それぞれの道に応じて公的年金制度に加入し、保険料を納める立場になっていくため、その制度の仕組みや意義についてしっかり理解することが必要である。 	

公的年金保険制度を題材としたモデル授業①（案）（2時間目）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 (社会保障教育の視点) など
導入	<p>少子高齢社会における公的年金制度</p>	<p>発問：少子高齢社会が公的年金制度に与える影響について考えよう。</p> <p><狙い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険料を支払う現役世代の人口が減少する一方で、高齢者が増加し、受給者が増えることを認識し、持続可能な公的年金制度を実現するために、国民全体の問題として考える必要があることを理解する。 ・少子高齢化に対応するため、年金財政は、保険料負担の上限を固定した上で、積立金の運用収入や取り崩しを行い、マクロ経済スライドによる年金額の給付水準の調整により、持続可能な仕組みとなっていることを理解させる。 <p><教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	
展開 ①	<p>自分の老後についてどう備えるか考える</p>	<p>発問：<u>人生100年時代「長生きによる経済的リスク」はあるだろうか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は何歳まで生きると思うか。(平均寿命を確認する。) ・老後って何歳から？現役と老後のイメージ？ ・あなたは、何歳まで働きたいか。 <p>【資料】</p> <p>内閣府HP 高齢社会白書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html <p>令和3（2021）年度版</p> <p>令和2年度 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況</p> <p>第2節 高齢期の暮らしの動向</p> <p>1 就業・所得</p> <p>https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s2s_01.pdf</p> <p>2 健康・福祉</p> <p>https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s2s_02.pdf→「老後」の生活といっても、何歳までどのように生きていか（will）、どのように生きられるか（can）ということが異なることに気づく</p>	<p>大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」</p> <p>主題：少子高齢化における社会保障の充実・安定化、金融の働きなどとも関連</p>

<p>展開 ①</p>	<p>老齢年金保険について理解する</p>	<p>発問：イメージした老後の生活費をどのように賄っていけばよいか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生 100 年時代と言われる中、公的年金の役割・強みは何だろうか。 役割：長生き等への「備え」「保険」であること、 強み：将来の物価・賃金の伸びに対応していること 終身年金であることなど ・何歳まで働き、何歳から年金を受け取りたいか。 年金の受け取り開始時期は 60 歳から 70 歳までの間で選ぶことができ、遅らせればその分、年金額が増える。(令和 4 年 4 月 1 日からは 75 歳まで繰下げ可能となる。) <p>老齢年金は、65 歳で請求せずに 66 歳以降 70 歳までの間で申し出た時から繰下げて請求できる。繰下げ受給の請求をした時点に応じて、最大で 42%年金額が増額される。(令和 4 年 4 月 1 日からは最大で 84%増額される。)</p> <p>繰下げには、老齢基礎年金の繰下げと老齢厚生年金の繰下げがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他私的年金 (ideco) などの活用が考えられる。 	
<p>まとめ</p>	<p>これまでの学習を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 限目で公的年金制度の意義や仕組みについて理解した前提で、少子高齢社会における公的年金制度の課題について理解する。 ・ 制度の全体像を把握した上で、自身のライフプランの設計の上で、老齢年金がどのように活用できるか確認し、その意義を自分事として理解する。 	